

集中企画

もう新聞はいらないか？

## 5大全国紙 WWWサービスの実力

4月24日と25日の麻原被告初公判の日、朝日、産経、日経、毎日、読売の5つの新聞社がこぞってホームページで公判速報を流した。夕刊の情報はその日の昼に、朝刊の情報は前日の夕方に、その情報は紙の新聞より早く私たちの目にふれた。インターネットのWWWサービスを使うと、複数の新聞の記事をまとめて読むことができる。そうすると、もう紙の新聞を読む必要はないのではないだろうか。各社のニュースサービスを新聞と比較して、その実力を探る。

国内全国紙 - - - - - 編集部  
海外紙+地方紙カタログ - - 池田将

職業はオウム主宰  
松本の名前は捨て

# インターネットのニュースサービスは「新聞」から作られる

## 新聞の製作過程

新聞の製作工程は、紙面ごとにコンピュータで管理されている。ニュースが発生すると、政治面、社会面といった各分野の担当記者が、原稿を電話回線で新聞社のコンピュータに送り込む。

各面のデスクでチェックを受けた記事は新聞の編集システムに流し込まれ、関連写真などと合わせて編集・加工される。ここまでの過程は実にスピーディーに進められ、記者が送稿して編集システムに入るまでに30分かからないことも多い。レイアウトが確定した段階でも新しいニュースが入れば、そのたびに記事が差し替えられる。でき上がった紙面は1種類でなく、地方（東京本社の場合、関東の各地）へ配送される分は、運送時間を考慮して早い時間に締め切られて印刷が始まる。夕刊だと午後1時頃にはすでに最初の新聞ができあがっている。

## インターネットニュースの速さ

インターネットで提供される情報は、この新聞製作の過程でできる電子データの一部を取り出しているものだ。一番多いのは、紙面どおりにレイアウトされた完成データから文字情報だけを取り出して、新聞の発行前に流しているものである。パソコン通信で提供される有料の「ニュース速報」もこのケースが多い。

しかし、もっと速いニュースがある。これは、記者が送稿した記事を新聞の編集システムには入れず、別に加工して、電光掲示板やパソコン通信に流すオンラインニュースサービス専用のデータである。

パソコン通信で提供されているニュースサービスも実は2通りある。たとえば、ニフティサービスの「毎日新聞ニュース速報」は、毎日新聞の夕刊や朝刊の記事を発行前に取り出して速報として提供しているが、「毎日新聞ヘッドラインニュース」というサービスでは、電光掲示板などに利用される短いニュース速報を1分置きに提供している。速報という意味では、紙面を前提にしたものより、オンラインニュースを前提にしたサービスのほうが速い。

新聞社のWWWサービスの情報は、一部このオンラインニュース用のデータを自動的に登録し

ているものがあるが、これはわずかで、全体的には、刻々と流れる文字情報がリアルタイムに入るサービスではなく、紙の新聞が私たちの目にふれる前に一足早く記事を読めるサービスだと考えたほうが良いだろう。

## 有料ニュースとの差別化

現在、パソコン通信のニュースは有料だが、インターネットでは無料で提供されている。だからこまろいろな新聞を手軽に読むことができるのだが、無料であることはサービス内容に大きく影響している。どの新聞社もパソコン通信上で有料サービスを提供している関係で、その記事すべてを無料のインターネットに載せるわけにはいかない。各社は有料の速報サービスと区別するために、あえて文章を短くカットしたり、重要な記事だけに抑えたり、更新タイミングを減らしたりして差別化しているのが現状だ。今後、どんな形で有料化するのか、それとも無料のニュースサービスとしてすでに使われている以上、このまま広告収入を柱にしていけるのか、各社の方向はまだわからない。

## 情報量は新聞並みではない

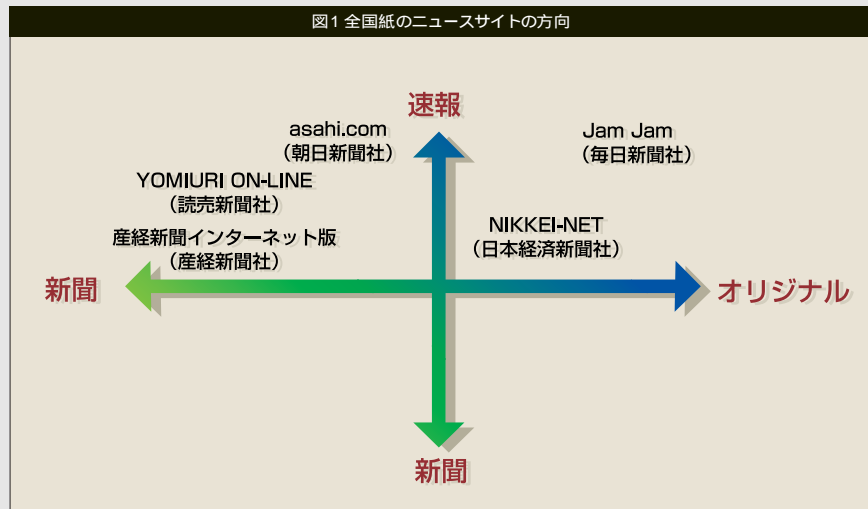
次のページから朝日新聞、産経新聞、日経新聞、毎日新聞、読売新聞の5つの全国紙について、朝刊に掲載される記事のうちのどれくらい

がインターネットに収録されているかを表に掲載しているのを、参考にしてほしい。前述したように、各社とも有料サービスと区別するために「重要だと思われる記事」「主要記事」をいくつか選んで載せている。したがって大きなニュースは手に入るが小さなニュースは手に入らない。とくにニュース性がないと思われる生活面・家庭欄などの記事はほとんどないといっている。一方、社説などのコラムは自社の主張としてアピールできると考えているのか、どの新聞社も積極的に掲載している。

## インターネット版の編集方針は多様

以上見てきたように、WWWサービスは一部の記事が新聞より早く読めるというメリットがあるものの、ニュースサービスとしてみればそれはテレビなどの他のメディアで実現されていることであり、歴史のある紙の新聞にとって代わる要因にはならないだろう。では各社は何をサービスの柱にしているのか。それは「オンデマンドな新聞の形態」（朝日新聞のasahi.com）であったり、「新聞のイメージから脱したテレビ的楽しさ」であったり（毎日新聞のJamJam）、次のページから各社のサービスを詳しく紹介していこう。

図1 全国紙のニュースサイトの方向



# 4月24日「麻原被告初公判」をインターネットニュースサービスはこう伝えた。

	11:00 ~	13:00 ~	15:00 ~	夕刊	朝刊
ASAHI					
SANKAI					
NIKKEI					
MAINICHI					
YOMIURI					

「午前10時から初公判開始」とまだ朝刊並みの情報が多いなか、毎日新聞社JamJamの画面の右上には「麻原彰晃です」という人定質問の発言内容が飛び込んできた。

12時～13時頃になると夕刊の締め切りに合わせて「松本の名を捨てた」「職業はオウム真理教主主宰者」という被告の発言がおり、これらは夕刊のトップ見出しになった。

13時40分から起訴状朗読が再開されたと読売新聞が伝えている。このあとも1時間置ききらいに更新され、翌朝の朝刊では「罪状認否を留保」の見出しが掲載されている。



朝日新聞社

1日の記事本数 朝刊から60本+速報200本  
更新頻度 3~4時間に1回

朝日新聞朝刊記事の収録状況

総合面	
主張・解説面	
政治面	
国際面	×
経済面	
商況面	×
スポーツ面	
家庭欄	×
地方面	×
社会面	

=全記事の全文を掲載  
=一部の記事の全文を掲載  
=一部の記事を文章を削って掲載  
×=未収録

トップページの広告掲載状況  
下部メニューボタンの下に3本

昨年の8月10日にサービスを開始した asahi.com(アサヒ・コム)は、現在平日で1日のヒット数(ファイルの見出しのクリック数)が100万を数える人気サイトだ。

【記事内容】

asahi.comのサービスは、「ニュース速報」と「今日の朝刊」の2つが柱になっている。とくに「ニュース速報」は最も利用価値が高いメニューだろう。

asahi.comに入ると、まず目につくのがトップページに並んでいる5本の速報記事の見出しだ(図1)。そこをクリックすると、本文が表示される。また、同じトップページにある青いメニューボタンの中の「ニュース速報」をクリックすれば、「社会」「政治」「経済」「国際」「スポーツ」「人事」と6つのカテゴリー別に、それぞれ5~10本ほどの記事見出しが表示される(図2)。このカテゴリーは、朝日新聞の紙面の区分と連動しているが、記事本文は紙面を前提にしたものではなく、朝日新聞が提供するオンラインニュースサービス用の素材を使ったものである。常に1カテゴリーあたり5本~10本ほどの記事が掲載されており、3~4時間に1回程度新しいニュー

スが追加されていく。速報といっても1つの記事の分量は500~1000字ほどあり、十分読み応えがある。

「今日の朝刊」は、文字どおりその日の朝刊から主要な記事をピックアップしたもので、毎日1回、朝6時頃に更新される。カテゴリーは「総合」「社会」「政治」「経済」「スポーツ」と紙面と連動しており、本数は1カテゴリーあたり約10本ずつ計60本。掲載データは地方版ではなく、朝日新聞東京本社発行の最終版の記事である。

読んでいて便利なのはリンクだ。新聞では大きな記事に「×面に関連記事」とあるが、asahi.comでも関連記事にリンクで飛べるようになっている。たとえば5月3日の朝刊トップ『「楚辺」緊急使用不許可へ』という記事では、紙面には「2・27面に関連記事」と掲載されているが、asahi.comでも『政府、対抗策手詰まり』と『【社会面】国「打つ手なし」県民「成果出た」』の2つの記事にリンクが張ってある。紙をめくるかマウスでクリックするかの違いといえばそれまでだが、これがなかなか読みやすい。このほかに、社説、そして『天声人語』と連載小説(現在は陳舜臣氏の『チンギス・ハーン一族』)も読める。天声人語と小説は、その日の分だけではなく過去1週間分(7話)掲載されている。

この「今日の朝刊」は、海外在住者にはとくに好評だという。

【新聞にはないメニュー】

不定期に掲載される「特集」というメニューでは、「オウム裁判」「どうする?住専」などがあるが、これは紙面の特集記事に関連記事を加えたり、紙面に入りきれずに削除してしまった情報をまとめて収録している。横尾忠則インタビューなどもあり、「朝日新聞のソースではなくasahi.com独自取材の記事を提供する実験」(朝日新聞社メディア開発局企画開発セクション大前純一氏)も行われている。

【記事データベースと検索機能】

4月25日からはトップページにSearchボタンが加わった。これは85年から95年10月

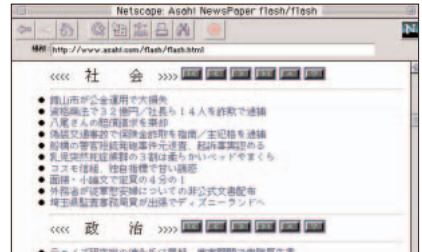
までの朝日新聞の記事データベース(地方版の記事含む)を提供し、これをフリーキーワードで検索する「Digital News Archives」という実験サービスだ。キーワードを入力して検索を実行すると、あっという間に関連記事がリストアップされる。実験とはいえパソコン通信経由で使う記事データベースと比べても、検索の速さ、使いやすさともにこちらのほうが数段上である。しかし、現在はあくまでも実験中で、朝日新聞社が有料で提供しているデータベースサービスと区別するため、95年11月以降のデータは提供していない。

ミラーサイト

- http://ijj.asahi.com/
- http://tokyonet.asahi.com/
- http://spin.asahi.com/
- http://infoweb.asahi.com/



【図1 トップページ】



【図2 カテゴリー別のニュース速報】



【図2 実験中の検索サービス】



## 朝刊全記事の見出し一覧で読者サービス

## 産経新聞インターネット版

URL <http://www.sankei.co.jp/>

## 産経新聞社

1日の記事本数 1日数本+朝刊の記事見出し  
更新頻度 1日2回~ニュースの発生に応じて随時

## 産経新聞朝刊記事の収録状況

総合面	
国際面	× (見出しのみ)
長期連載面	
経済面	× (見出しのみ)
証券面	×
オピニオン面	(社説など)
メディア面	× (見出しのみ)
特集欄	× (見出しのみ)
生活面	×
スポーツ面	
地方面	×
社会面	(訃報など)

トップページの広告掲載状況  
なし

産経新聞のインターネット版は5月下旬に本格スタートする。取材中の4月末段階ではまだ実験中で、トップページ以外は完成していなかったが、4月24日と25日の麻原被告初判の日、他のサイトと同じ早さで公判速報を流していた。

インターネット版を担当する産経新聞編集局電子メディア室は、フジテレビの電波の隙間を使って携帯端末にニュースを送信する電子新聞サービス『E-NEWS』への記事も提供している電子媒体部門だ。産経新聞インターネット版は、「電子的な新聞の実験」「産経新聞本紙のPR、サポート」と位置づけられていおり、新聞記事から継続して掲載する価値があると判断した内容を登録するなど、産経新聞の読者サポートにつながるサービスを行っていく予定だ。ここでは準備段階のものをもとに内容を紹介していこう。

## 【記事内容】

アクセスしてはじめて表示される画面(図1)の印象は、産経新聞そのものである。ここはフロントページと呼ばれ、新聞でいえば一面になる。重要と思われるニュースを朝刊・夕刊の時間帯(毎朝担当者が入社した9時頃

と夕刊ができあがる午前11時~2時頃)を中心に、随時更新していく。記事本数は1日4~5本。フロントページを下のほうに降りていくと、さらにいくつかのニュースが表示されるようになっている。「ホームページのアップデートは配達地域によってたくさんの版を作る新聞の編集よりはるかに手軽」(電子メディア室 亀村昭彦氏)なことから、大事故など大きなニュースが発生したときには柔軟に対応する意向だ。

フロントページを下のほうに降りていくと、左端にメニューボタンが現れる。「総合・内政面」「経済面」「国際面」「スポーツ面」「メディア面」「社会面」と新聞の各面がそのままメニューになっているが、このボタンを選んで表示されるのは朝刊に掲載された全記事の見出し一覧で、記事本文ではない。

「人事」「訃報」「主張(社説)」記事やコラム類は全文を掲載する方針だ。たとえば産経新聞の長期連載面に載っている「未来史閲覧」や、一面の「朝の詩」はそのまま掲載される。産経新聞の顔である一面コラムの「産経抄」は、asahi.comの天声人語と同様、過去1週間分が登録される。

産経新聞インターネット版の製作過程は、朝刊と夕刊の紙面用にレイアウトされた記事をテキストに戻してフロッピーでマックにもってくる。そしてマックで編集した後サーバーへ送り込んでいる。写真などは写真部から別に調達する。つまり、すべて手作業で行われている。あくまでも新聞に準じた「編集」に力を入れる方針だ。フロントページに掲載される記事は、ホームページ画面で見やすように、紙面の文章より短くカットされている。

## 【バックナンバーと検索】

過去のフロントページは、図2のように日付で選んで読むことができるようになる。産経新聞に掲載されたその日の最も重要なニュースを知るといふ意味では便利だろう。ただし、あくまでもインターネット版の記事なので、新聞に掲載された全文データベースではない。また、フリーキーワードによる検索機能はサポートされない。

## 【新聞にはないメニュー】

産経新聞の写真部による写真集「産経新聞写真館」や、長期連載として意味があると思われる記事・画像を蓄積する「データボックス」では『プロ野球名鑑』『Jリーグ名鑑』を提供している。これ以外にも時事用語解説を「お便利ツール」として用意したり、インターネット版の音楽記者による音楽情報、ニューヨークタイムズからトンガの新聞まで全部で約70種類のニュースサイトの情報を集めたリンク集など、「読者サービス」としての力作はたくさんある。ニュースサービスとしてはごく限られたニュースしか読めないのが残念だが、産経新聞の雰囲気を知るにはいいだろう。



【図1 トップページ】



【図2 過去のフロントページの検索】



日本経済新聞社

1日の記事本数 約60本  
更新頻度 1日3~4回

日経新聞朝刊記事の収録状況

総合・政治面	
総合面	
経済面	
オピニオン・解説面	
国際面	
産業面	
消費産業面	
メディア&アド面	
科学技術面	
店頭・ベンチャー面	
企業財務面	
マーケット面	
証券面	
商品面	×
コラム(経済教室)	×
特集面	×
地域面	
スポーツ面	
社会面	

注) でも各面が必ず収録されるとはかぎらない。

トップページの広告掲載状況

画面中央にタイトルボタン4本 他ページも  
広告あり

日本経済新聞社のインターネットサービスは昨年4月に公開された『NIKKEI X』のホームページが最初である。日経新聞の土曜に掲載される若者向けのコーナーと連動したホームページだ。続いて今年の1月には英文情報誌『NIKKEI WEEKLY』のホームページも立ち上がったが、この4月から、ばらばらだったこれらのサービスを統合し、日本経済新聞社のインターネットサービスとして新スタートしたのがこのNIKKEI NET(ニッケイ・ネット)である。

【サービス概要】

最大の特徴は、日経本紙、日経産業、日経流通、日経金融の4紙の主要記事がまとめて読めることだ。同社のマルチメディア局編集部が各紙の記事からインターネット利用者にとくに有益だと思われる記事を各分野数本ず

つセレクトし、独自のカテゴリーに再構成して掲載している。ニュースの更新は朝刊記事の早朝1回と夕刊記事ができあがる午後から夕方にかけての1回を基本に、大きなニュースがあるときは随時更新する。実際には1日3~4回は更新されており、朝、昼休み、夕方と、仕事の合間に読むにはちょうどいい。

【記事内容】

トップページ(図1)のメニューの下には「主なニュース」として5本の記事見出しが並び、日経らしく、他紙のサイトに比べて政治ネタや事件より経済・産業分野の情報が多いのが特徴だ。1つの記事は200字から数百字ぐらいに短くまとめられている。

ニュースサービスのおもなメニューは「ビジネスニュース」と「サイバーニュース」。ビジネスニュースの中には「政治・経済・社会」「産業ニュース」「マネー&マーケット」「地域情報」などのカテゴリーがあり、日経新聞の紙面と連動している。たとえば日経新聞の地域面にある「列島フラッシュ」という欄では、地方版に掲載される記事の中で全国の読者にも有益な情報を数本掲載しているが、これがNIKKEI NETでは「地域情報」の中に掲載される。地方の経済ニュースがまとめて読めるという他紙にはないサービスだ。日経新聞の社説や一面コラムの「春秋」もビジネスニュースの中にある。

「サイバーニュース」は、インターネットに関わりの深い記事を各紙から選んで提供している。たとえば、ここに掲載されるインタビューは、日経産業で連載されている『サイバースペース革命』の記事である。

読み物として面白いのは「トレンド情報」だ。ネットスケープ2.0のフレーム画面を使い、写真が豊富な『トレンド最前線』は、日経流通の人気記事を掲載している。「新製品・ショッピング」情報は、日経産業、日経流通から面白い新製品情報をピックアップし、やはりフレーム画面でカタログ的に見せている。日経本紙土曜日の『NIKKEI X』の概要を紹介するコーナーもこの「トレンド情報」の中にあり、20代~30代のインターネット利用者

にアピールする内容になっている。

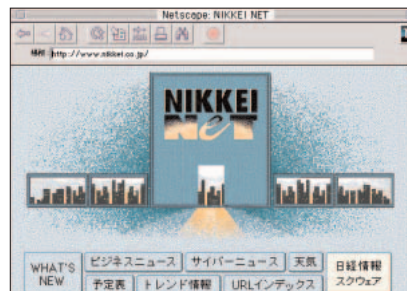
地味だが意外に実用的なのが「予定表」だ。たとえば、5月4日は政治のカテゴリーで「ヨルダン川西岸・ガザ地区に関する恒久的地位交渉の開始期限」、社会・スポーツで「体操五輪代表選手決定競技会最終日」と表示される。これは日経新聞の3面の総合面の左すみに小さく掲載されている『Today』という記事の見出し部分だ。これに加えて1年間のスポーツやレジャーなどのスケジュールが掲載されている。

【新聞にないメニュー】

ビジネスニュースにある「本社調査」は日経本社独自の調査レポートで、「インターネット利用実態調査」などビジネスに役立つレポートが掲載されている。また、日常的に重宝しそうなのがトップページのメニューにあるURLインデックスだ。業種別の企業のホームページへのリンク集である。

【バックナンバーと検索機能】

ビジネスニュースやサイバーニュースは毎日消えていく。蓄積については検討中とのことである。速報ニュースや記事データベースというより手軽なビジネス情報源として個人利用におすすめである。



【図1 トップページ】



【図2 トレンド情報】

# JamJam

URL <http://www.mainichi.co.jp/>

## 毎日新聞社

1日の記事本数 約40本+ヘッドラインニュース  
更新頻度 1日4回、ヘッドラインニュースは1時間に1回

### 毎日新聞朝刊記事の収録状況

総合 ニュースの焦点	
オピニオンワイド	×
人びと 民族 地球	×
経済がわかる 企業が見える	
特集欄	×
生活 いきいき 家庭	×
地方欄	×
スポーツ 人間ドラマ	
社会 事件 ひと話題	

### トップページの広告掲載状況

フレーム画面で常に6分の1ページにプレート1本表示。3分に一度自動更新。他のページも同様。

国内新聞社が運営するサイトでのなかでも異色なのが毎日新聞社のJamJam(ジャムジャム)である。開設は95年8月1日。そのカジュアルなネーミングから新聞社のニュースサービスとしてより娯楽番組のイメージで捉えている人も多いだろう。「ニュース」「エンターテインメント」の2つを柱に「新聞の有用性とテレビの楽しさを合わせた新しいメディア展開」(毎日新聞社メディア事業局JamJam鶴沢哲雄編集長)をしている。

### 【記事内容】

ニュースのメインメニューはニュースTOP3(図1)。常に新しいニュースの見出しが左のウィンドウに掲示されている。これは毎日新聞社がパソコン通信などに配信しているオンラインニュース用の素材から重要記事をセレクトして掲載しているもの。以前は朝刊と夕刊の締め切りタイミングで紙面化された記事の中からニュースを選んで1日2回更新していたが、この6月以降は1日4回更新し、1回約10本の記事を提供する予定だ。左の画面で記事名をクリックすると、右のウィンドウに本文が表示される。

もうひとつのニュースサービスは右上の細かいウィンドウに表示される「毎日新聞ヘッド

ラインニュース」だ。カテゴリーは「総合」「政治」「経済」「国際」「社会」「運動」に分かれていて、そのカゴリーの文字部分をクリックして表示させる。「衆院厚生委が徳永・元日赤中央血液センター所長を招致。徳永氏は厚生省のエイズ対応を批判」といった1本50字ぐらいの一言ニュースだ(図2)。毎日新聞社のメディア情報部がパソコン通信などのオンラインニュースサービスに配信しているもので、まさに電光掲示板のニュースそのままである。画面では1時間置きに自動更新されているが、毎日新聞社のサーバーでは1分置きぐらいに流れていて、ウィンドウをクリックすると表れる「ホットニュース」というボタンを押せば、その時点の新しいニュースがサーバーから送られてくるしくみになっている。ニュースTOP3が手作業で更新されるのに対し、ヘッドラインニュースは完全に自動更新される。刻々と変わる1行ニュースが画面に出てくるのは面白いが、このニュースはどちらかというと、別のホームページを見ているときついで見たいという感じのものである。

このほかにも大きなニュースがあった場合には特別に対応する。4月24日と25日の麻原裁判の日は公判速報を随時流し、JamJamとしては過去最高の11万アクセス(ページをめくった数)を記録した。

### 【新聞にはないメニュー】

JamJamの個性を支えているのはエンターテインメントのほうだ。左上のウィンドウで「ニュース」ではなく「娯楽」のボタンをクリックすると、画面が変わって芸能ニュースが表示される(図3)。「松田聖子の移籍第一弾の新曲が22日に発売。初日で50万枚に迫る売れ行きを見せた～」という記事はサンケイスポーツからの抜粋。ほかの記事もスポーツニッポンやデイリースポーツなどいろいろなスポーツ紙の情報が掲載されている。実は、この記事は毎日新聞社の『FAX毎日』というニュースのFAX配信サービスから借りている。このほかのメニュー「歳時記365」は『俳句アルファ』を流用、「情報まんだら」は夕刊か

ら、「フォトギャラリー」は毎日新聞社の200万枚の写真データベースからの抜粋、日曜特集は毎日新聞の日曜版からと、同社のさまざまなサービスとリンクしている。

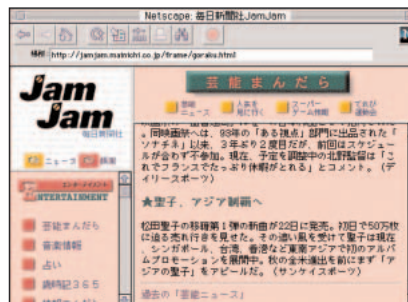
テレビ的な楽しさは、独自企画で提供する。「ゲーム&プレゼント」のコーナーでチャリティーオークションを企画したら、女性スタッフの手作りクッキーが7000円で売れたという。こんな視聴者参加番組乗りの企画も他のニュースサービスとはまったく違う。毎日新聞の代わりに期待して見るよりゲームを楽しんだほうが面白いかもしれない。



【図1 ニュースのトップ】



【図2 ヘッドラインニュース】



【図3 エンターテインメントのトップ】



読売新聞社

1日の記事本数 約150本  
更新頻度 1日数回

読売新聞朝刊記事の収録状況

政治・総合面	
社説	
国際面	
経済面	
商況面	×
投書面	×
解説面	×
スポーツ面	
生活面	×
地域面	×
世相面	×
社会面	

トップページの広告掲載状況  
画面中央に1社のプレートを表示 他のページにもあり。

発行部数1000万部以上、世界最大の購読者をもつと言われる読売新聞のインターネット版である。昨年、読売新聞社の英字新聞『Daily Yomiuri』が創刊40周年を迎えたのを機に、日本で起こっていることと読売新聞の主張を世界に理解してもらおうと、社説と主要記事を1日3本から5本、英両語で昨年の6月16日に発信を始めた。その後、インターネット利用者の広がりを受けて1月28日にバージョンアップし、毎日150本ほどの記事を提供する現在の形になっている。

【記事内容】

トップページでは「TOP NEWS」「特集」「速報」の3つに分かれている(図1)。TOP NEWSはその日の朝刊の一面トップの記事、または夕刊の一面トップになるその日の速報である。たとえば5月4日の朝10時にアクセスすると、TOP NEWSはその日の朝刊の一面に載っている「ヨウ素剤に副作用」という記事が掲載されている。午後3時にアクセスすると、「奄美大島近海でダイバー10人不明」になっている。その後、4時16分に「不

明のダイバー7人が救助」という新しい情報が掲載されている。この日は夕刊が休みだったが、通常ならこれが夕刊に載ったり、翌朝の一面になったりする。

「速報」または「TOP NEWS」に掲載されるニュースは、「政治」「経済」「社会」「国際」「スポーツ」の категорияに分類されていて、読売新聞の各面に対応している。トップページから「記事一覧」をクリックすると、カテゴリー別のニュースが一覧できるので全体像がわかるだろう(図2)。ニュース性のあるものを収録するという方針なので、生活面、投書面、短歌・俳句面や、文化・芸能分野の記事はインターネット版にはない。

各記事は、朝刊と夕刊の締切に合わせて校了段階のものから読売新聞社メディア企画局・編集部がジャンル別に7~8本選んでHTML化している。パソコン通信にも配信しているが、インターネット版は全文提供している有料サービスと区別するため、書き出しから400字程度の短い情報にとどめている。そのため本文はすべてホームページの1画面に収まっている。記事1つ1つに掲載された時間が書いてあるので、ニュースの新鮮度が正確にわかる。

このほか「社説・コラム」は、明るく日の朝刊にのる社説や1面コラムの『編集手帳』が前日の深夜には読める。「特集」は「オウム裁判」など新聞の特集ページとして作られたもので、これは毎日更新されるわけではない。

【新聞にはないメニュー】

トップページを下に降りていくと、さらにいろいろなメニューボタンがある。「GIANTS情報」「ヴェルディ情報」「スポーツ報知」といった読売ならではの特別メニューが並んでいるが、なかでも新聞社らしいのは、コラムの「デジタル時評」だ。読売新聞のベテラン記者が執筆するもので、まだ数は少ないが、テーマは政治からスポーツまで幅広い。「デジタル特派員」のコーナーでは外部レポーターによるインターネット関連の情報が並ぶ。Shockwaveのボタンを選ぶと、平成元年から7年までの読売新聞の記事のうち読者が選

んだ10大ニュースを紙面イメージのまま表示したり写真を表示できたりするサービスがある。

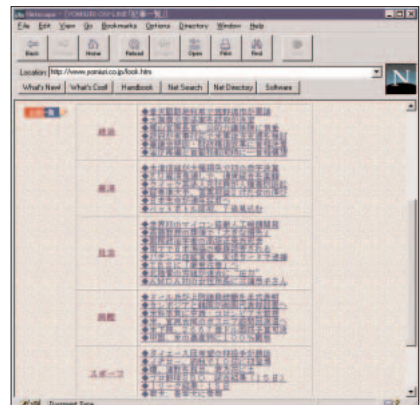
【バックナンバーと検索機能】

バックナンバーはまだ登録されていない。読売新聞社はYOMIDAS(ヨミダス)という有料の読売新聞記事データベースを提供しているが、これとの連動については現在検討中とのことである。今年の12月には、読売新聞社が提供しているパソコン通信サービスYOMINETとインターネットを連結する予定で、インターネットからYOMINETへ入り、そこからデータベースを使えるようにすることも検討しているという。

YOMIURI ON-LINEの利用にはIDとパスワードが発行されるユーザー登録制度も選択できる。6月からはその登録ユーザーにかぎり、大きなニュースが発生したときに電子メールで速報を流すサービスを試験的に提供する予定だ。



【図1 トップページ】



【図2 記事一覧】



# まだまだこんなにある全国の新聞社のページ

全国規模の大新聞のほかにも地方紙やスポーツ紙、夕刊紙などのホームページが続々サービスを開始している。ここではニュース性の高いものを紹介しよう。

**東京新聞** [URL](http://www.tokyo-np.co.jp/) <http://www.tokyo-np.co.jp/>



発行地域 関東と静岡県東部

デイリーで内容が更新されるわけではないが、東京周辺のイベントや風物詩が項目別に掲載されている。『FROM TOKYO』では写真や音声を変えて、東京の食・節・遊が取り上げられている。

**京都新聞** [URL](http://www.kyoto-np.co.jp/) <http://www.kyoto-np.co.jp/>



発行地域 京都府と滋賀県

京都新聞社のページはデイリーで更新される内容はないが、京都・滋賀周辺的情勢、イベント情報や地元企業へのインタビュー記事などから構成されている。京都・滋賀の有力企業による求人案内ページもある。

**山梨日日新聞のMiljan** [URL](http://www.sannichi-ybs.co.jp/News/miljan.html) <http://www.sannichi-ybs.co.jp/News/miljan.html>



発行地域 山梨県

毎日、山梨日日新聞から主な記事が2つくらい写真を交えて登録されている。「Miljan(見るじゃん)」というその名のとおり、ビジュアル重視の作りだが、内容はまだ充実していない。山梨も舞台になったオウム事件の写真ライブラリーがある。

**大阪新聞** [URL](http://www.osakanews.com/) <http://www.osakanews.com/>



発行地域 近畿圏

どこにニュースが入っているのかわからないほど、盛りだくさんの内容。Shockwaveを使ったコーナー「大阪縁日」では天神祭さながらにゲームが楽しめ、上位に入賞すると賞品が当たる。新聞社のホームページだが、新聞以外の部分のほう面白い。

**中日新聞、中日スポーツ** [URL](http://www.chunichi.co.jp/) <http://www.chunichi.co.jp/>



発行地域 中部9県

中日新聞から5つの記事をチョイスした、『夕刊セレクト5』のほか、星野監督の声が聞ける中日ドラゴンズの応援コーナー、中部地域のスポット天気予報が見られる。

**スポーツ・ニッポン** [URL](http://jamjam.mainichi.co.jp/suponichi/) <http://jamjam.mainichi.co.jp/suponichi/>



発行地域 全国

メニューが芸能・スポーツ・写真・てまえみその4つに分類され、シンプルながらも読みやすい作りになっている。「てまえみそニュース」では紙面に載らない、新聞記者の裏話が紹介されている。

**北國新聞** [URL](http://www.hokkoku.co.jp/) <http://www.hokkoku.co.jp/>



発行地域 石川県

全国のニュースはほとんど含まれず、石川地域に特化したニュースが1日に3~4本くらい掲載されている。リンクが張られている兄弟紙の富山新聞(発行地域は富山県)のホームページとあわせれば、北陸の最新情報はかなり網羅できる。

**夕刊フジのZAKZAK** [URL](http://www.zakzak.co.jp/) <http://www.zakzak.co.jp/>



発行地域 本州全域

スポーツや芸能情報を中心に網羅。アダルト情報まで扱っており、夕刊フジが提携している海外のサーバーにリンクして、ヌードを見ることが出来る。夕刊紙らしさをインターネットでも失っていないのがうれしい。

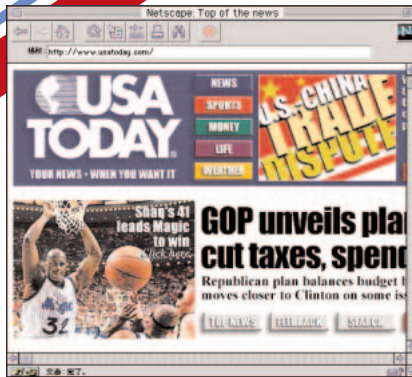
米国内のニュース速報を提供する全米の人気紙

# USA TODAY

URL <http://www.usatoday.com/>

海外編

【図1 トップページ】



## USA TODAY

USA TODAY 国際版記事の収録状況

NEWSLINE	
NATIONLINE	(NEWSLINEに統合)
WORLDLINE	(NEWSLINEに統合)
LIFELINE	
WEATHER	
SPORTSLINE	記事とは別の速報サービス
MONEYLINE	記事とは別の速報サービス

日本の新聞社のページからよくリンクされているのが、アメリカ唯一の全国紙『USA TODAY』のホームページだ。『USA TODAY』の創刊は1982年とつい最近のことだが、読みやすいカラー印刷や、有名ホテルや航空会社とタイアップした販売促進がうけて全米で人気を博している。96年4月現在の発行部数はアメリカだけで約210万部。世界90か国以上で読まれている。日本では国際版しか手に入らないが、インターネットならアメリカ国内版の記事が読める。

### 【記事内容】

トップページは、紙の新聞と同様、大きく「ニュース」「スポーツ」「マネー」「ライフ(生活)」「ウェザー(天気)」の5つに分かれている(図1)。その下にその時点でのトップニュースが写真入りで掲げられている。頻繁に更新される紙の新聞とトップ項目が必ずしも同じとは限らない。

5月7日にアクセスしてみると、トップでは

ボスニア・ヘルツェゴビナでの収容所看守がムスリムやクロアチアの市民に暴行を働いたことに対する裁判のニュースが取り上げられていた。同じ日に国内で入手できる紙のUSA TODAYは5月6日付けのもので、前日のインターネット版に流れていたニュースが載っている。

USA TODAYのみならず、アメリカのマスコミ各社が全力をあげて取り組んでいるのが、今年の全米総選挙の話題だ。USA TODAYのホームページでは、読者の政治に対する関心度や、候補者のホームページを訪問したかどうかなどをエンターするようになっている。

### 【新聞にはないリアルタイムメニュー】

MoneyやSportsのコーナーは、とくに更新が速い。Moneyでは株価などのチャートが表示され、内容が刻々と変化するため、ユーザーは適宜、WWWブラウザの「再読み込み」をクリックしないといけない。Sportsで特筆すべきは野球の実況生中継のコーナーだろう。「テレビがなくても職場で野球が楽しめます」と紹介されるこのコーナーは、たとえば各球場のゲーム進行状況が得点やスタートメンバーなどはもちろん、ランナーの進塁状況まで表示される(図3)。ネットスケープなどを使っていれば、画面は自動的に2分に一度、更新される。また、ゴルフのトーナメント開催時は、ゴルフコースのイメージがVRMLでオンライン公開されることもある。Weather(天気)では、天気予報士に電子メールで問い合わせ、特定の地域の予報をホームページ上で答えてもらうこともできる。これらのサービス内容は新聞を超えている。

### 【日本のホームページとの比較】

日本の新聞は、紙版は縦書きでインターネット版は横書きというハンディのせいか、回線事情を考慮してか、文字のベタ張りが多いが、アメリカのサービスではニュースを語る写真が記事中に大きく掲げられているので細い回線でダイヤルアップしていると表示が遅くてイライラするだろう。

もうひとつ、アメリカの新聞社はインターネット版のサービスを有料の会員制で提供し



ている

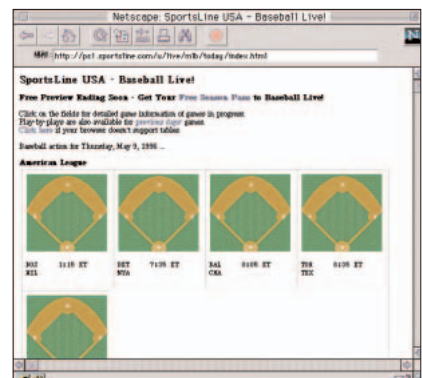
ところが多い。USA

Todayは無料だが、次ページで紹介しているサービスのいくつかはネットスケープのセキュアモードで会員登録して料金はカード決済になっている。

日本の新聞社のサービスも、回線インフラやセキュリティシステムの影響を受けて変わっていくのだろう。



【図2 頻繁に更新されるNEWSを選んで記事を読む。概要を読んだあと、全文読みたい場合はFull Storyをクリックする】



【図3 Javaを使った野球の速報。SPORTSLINEは独自ドメインをもっている】

URL <http://www.sportsline.com/>





# アジア、アメリカ、ヨーロッパ... 世界各地の新聞が読める!

日本では手に入らない世界各地の新聞が読めるのもインターネットならではのことで、デイリーで更新されているだけでなく、現地で手に入る紙の新聞より速い情報もある。

## ニューヨーク・タイムズ

URL <http://www.nytimes.com/>

対応言語 英語

地域 アメリカ・ニューヨーク州  
利用料 月額35ドル



新聞本紙の記事のほか、全米のテレビ番組一覧などの情報も提供されている。購読料は半額割引が適用され、月間17ドル50セントになるが、記事料から見ると若干高い気がする。

## ウォール・ストリート・ジャーナル

URL <http://www.wsj.com/>

対応言語 英語

地域 アメリカ全域



利用料 5月末までに登録すると7月末まで無料  
世界の経済新聞の雄だから世界の市場データを生中継。リアルオーディオのインタビュー音声やクイックタイムビデオも収録。クリッピングサービスも受けられる。香港版もここで読める。

## サンノゼ・マーキュリー・ニュース

URL <http://www.sjmercury.com/>

対応言語 英語

地域 アメリカ・カリフォルニア州  
利用料 月額4ドル95セント



インターネット版刊行3年目を迎える。タイトルと要約のみ無料。本文を読むには有料のIDが必要。履歴書を登録しておくで自分にあった仕事をデータベースから探してくれるエージェント機能がある。

## シンガポール ビジネス・タイムズ

URL <http://www.asia1.com.sg/biztimes/>

対応言語 英語

地域 シンガポール



シンガポールを代表する経済新聞。シンガポールとクアラ・ Lumpur の株式市況の速報をナマで見ることができる。兄弟紙である総合新聞『ストレイツ・タイムズ』も掲載されているので忘れずにチェックしよう。

## 中央日報

URL <http://www.joongang.co.kr/>

対応言語 英語・韓国語

地域 韓国



ニュースはほとんど韓国語で提供される。英語のページもあるが、「ニュース」と「韓国の窓」という2つのメニューにしか本文は入っていない。英語ニュースは中央日報社発行の英字新聞を元にして毎日内容が更新される。

## 香港スタンダード

URL <http://www.hkstandard.com/>

対応言語 英語・中国語

地域 香港



香港スタンダードは新聞には類を見ないほどインターネットに関心が高く、紙の新聞でも週末にはインターネットを網羅した特集が入る。求人情報メニューで履歴書を入力できてしまうのは、人の動きが激しい香港ならではの。

## ザ・タイムズ、サンデー・タイムズ

URL <http://www.the-times.co.uk/>

対応言語 英語

地域 イギリス

利用料 無料だが登録が必要



新聞の性格を反映して、ホームページにも気品の高さが伺える。他紙同様、クリッピング機能を使って「自分の新聞」を作ることができる。3行広告 (Classified Ads) のページがある。

## ヰィ・ヴェルト

URL <http://www.welt.de/>

対応言語 ドイツ語

地域 ドイツ



ホームページのデザインはシンプルだが、それがドイツらしい重々しい雰囲気を出して味がある。読者が参加できるニュースグループが用意されていてホームページ上からメッセージを登録できる。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)